

# 2021 学校評価公表シート

岩見沢聖十字幼稚園

## 1、園の教育目標

<ul style="list-style-type: none"> <li>・あかるい子ども</li> <li>・元気な子ども</li> <li>・かしこい子ども</li> <li>・やさしい子ども</li> </ul>	聖書の言葉に親しみ、苦しいときや悲しいときにこそ、くじけずに進める子ども 豊かな自然の中でからだをきたえ、こころもからだも芯から粘り強い子ども さまざまな文化に触れ、行事をつくる体験から学び、自分たちで考え行動できる子ども 悲しんでいる人、困っている人に共感できる優しい子ども
---	---

## 2、本年度に定めた重点的に取り組む目標や計画

・保育環境の整備・充実 ・教職員の力量向上と同僚性の醸成 ・子どもと職員が元気で過ごせるための感染等への危機管理
--

## 3、評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>・園の教育課程は幼稚園の教育要領を踏まえ、園の教育理念・教育目標を基に編成している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園の教育理念であるキリスト教の精神を大事にしながら、新しい幼稚園教育要領の改訂・施行を受けて、教育課程の見直しと整理を進めてきた。大きな柱は、非認知能力を育む「遊び」で、子ども達の自主的な活動を引き出すさまざまな活動が組み込まれている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児期の発達にふさわしい生活を展開できるように指導計画を作成している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各クラスの年間指導計画も現状に見合ったものに整備されたが、今年もコロナ感染症の影響で、教育活動を大きく変更せざるを得なかった。そんな中でも、子どもの経験をなるべく少なくしないように、遊びの時間や制作、調理保育、園外活動、行事などを工夫しながら柔軟に計画を変更し、実施することができた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全で清潔感のある環境構成をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続きコロナウィルス感染症予防のため、毎日の丁寧な清掃と消毒を行った。保育後に、保育室やテーブル・イス・ドア・おもちゃ等は、オゾン発生器や消毒液を併用して消毒した。すべての保育室に成長に見合う設計のロフトを設置したことにより、遊ぶための床面積が増え、ゆったりと安全に過ごすことができています。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児一人一人の姿を受け入れ、その子の良さを認めるよう心掛けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配置基準数を超えて教職員を多く配置しており、情報共有する時間を設定しながら、チームとして個々の保育にあたることができた。日々の反省会や、学期ごとのケース会議などを通して、全職員で全園児の保育に関わる意識を持ちあった。また、特別支援教育の必要な園児に対する指導方法の研修や、関係機関・病院などへ保護者と同行するなどして、保育方法の改善を図った。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者との信頼関係を築くように努めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人懇談、送迎の時間、お便りノート、電話連絡などで園児の様子を保護者に伝える努力をしていた。また、ホームページで日々の保育の様子を伝えている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の自然や社会とのかかわりを持つように努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森での活動「ネイチャーランド」やすり山登山、歩くスキーやそり遠足など、地域の自然の中で常に活動している。また、岩見沢農業高校の水田での田植えや稲刈り、教育大学でのバルシューレなど、地域の方々にたくさんの力をお借りして保育活動が展開されている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者としての専門性を高めるための各研修会に積極的に参加する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育に関する法人内研修「ぶどうの木」(ZOOM開催)では実践レポートを持ち寄り、積極的な討議を通して学び合うことができた。また、特別支援教育に関わる市内や道内の多くの専門家とつながり、相談活動を行うことができた。</li> <li>・特別支援教育に関しては、北翔大学から専門家に来園をお願いし、クラスごとに担任が支援の方法を相談することができた。</li> <li>・遊び環境に関する研修は、東京から2名の専門家を招いて、年間を通じた研修とワークショップを保護者とともに行うことができた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人事管理・財務管理を適正に行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人事管理では、職員も二人担任制に少し慣れて来て、役割分担や相談活動が機能し始め、チームで働くことができ、働き方改革にもつながった。ただ、個々に課題に直面している職員の声を早い時期に聞き取ることができなかったため、来年度からはさらに早い時期の個人面談が求められる。</li> <li>・財務管理は、公認会計士により、適正に運営されていると認められている。</li> </ul>

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年に引き続き、コロナ禍で教育活動が規制されたが、工夫を重ねて日々の活動や行事を行ってきたことが、保護者、教職員双方の喜びとなった。保育の柱は、非認知能力を育む「自主的な遊び」で、保護者アンケートでは「ドリル学習等よりも自主的な遊びを大事にする」ことについて、ほとんどの方が賛同し、子ども達の成長を喜ぶ感想が多数寄せられた。このことにより、教職員と保護者の気持ちが同じ方向を向いていることが確認された。</li> <li>・長年、課題となっている教職員の超過勤務については、コロナの影響もあり、行事や活動の精査が行われたことで、少し改善されてきた。まだ十分ではないので、今後も進めていく必要がある。</li> <li>・全体を通して、保護者・教職員・園長・関係者評価において、Aと評価された。</li> </ul>
---	---

5.今後取り組む課題

課題	具体的な取り組み方法
安全管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナウィルス感染拡大を予防するために、毎日の消毒や換気などを継続していく。また、園内環境整備を通して、挑戦できる遊具での不慮の事故が起きないように、毎日の安全点検を徹底していく。防災では、園独自の火災・地震訓練やコミュニティ全体の防災訓練への参加など、実践的な防災訓練を続けていきたい。</li> </ul>
指導計画の見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍でさまざまな活動が規制されているが、その中でもどんな活動ができるのか、どんな方法ならできるのか工夫し、今まで大事にしてきた活動の良さを失わないように柔軟に対応していきたい。同時に、精査を進め、もっとゆったりと保育ができるような見直しも進めていきたい。</li> </ul>
園内環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園内と園庭の環境整備と保育内容を連動させて、より子どもたちが自主的に活動を選択し、子ども同士が相談したり協力し合う活動に対応できる環境づくりを進めていきたい。</li> </ul>
園舎の改修・増築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・狭いホール、園舎の水回り等の老朽化と、不足している保育室や収納場所などの解決のために、園舎の改築または増築の計画を具体的に話し合っていきたい。</li> </ul>